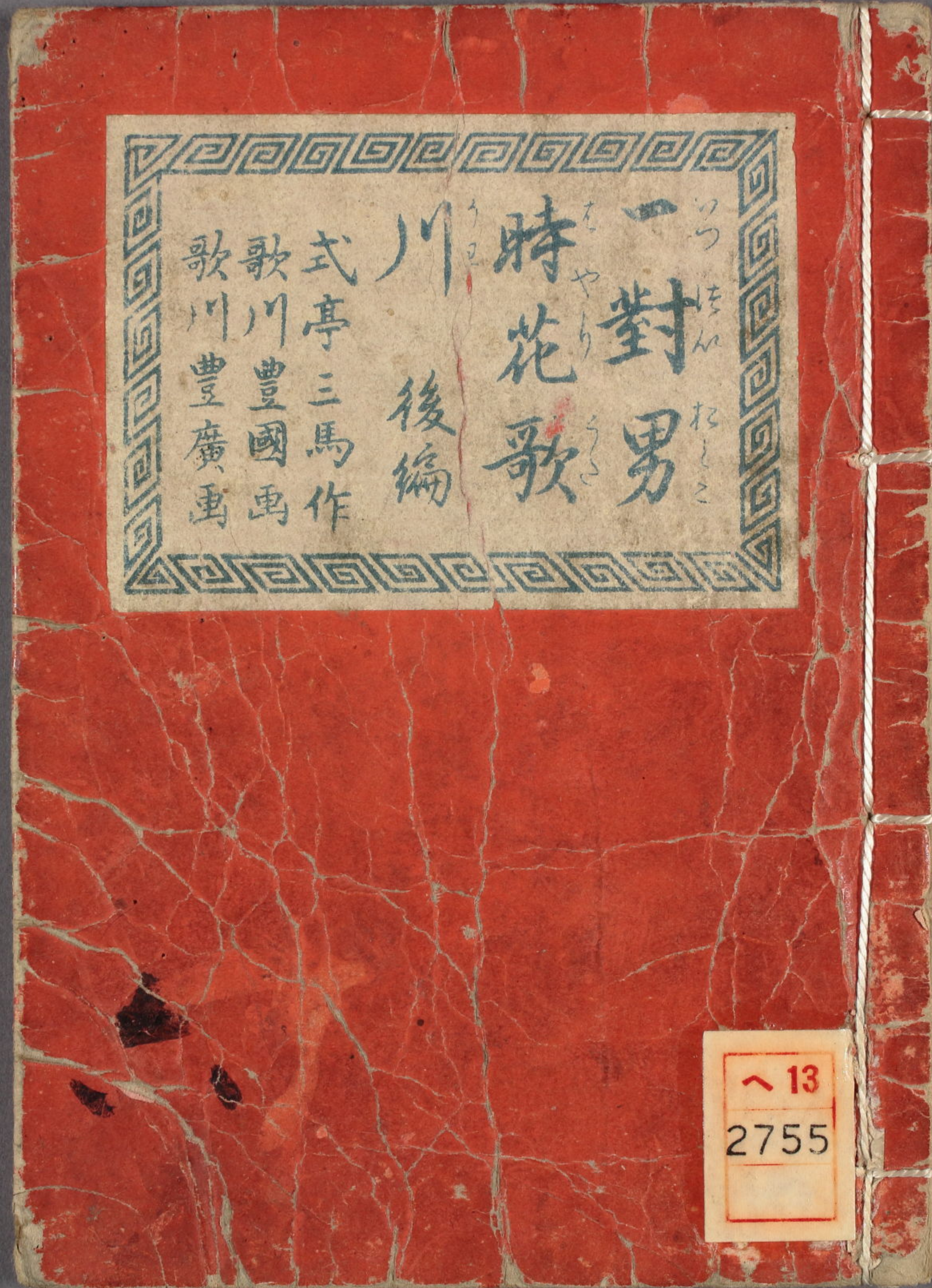




一対男
時花歌
川
後編
式亭三馬作
歌川豊國画
歌川豊廣画

へ 13
2755



天保十年己亥春洗板

朝茶湯一寸口切

山東京傳作歌川豊國画

却說浮世之助話

式亭三馬作歌川國貞画

先讀三國小女郎

山東京山作歌川國貞画

昔語丹前風呂

式亭三馬作歌川國直画

天竺德兵衛物語

山東京傳作歌川豊國画

今昔小町譚

橋本徳瓶作歌川豊國画

松縁高砂話

姥尉輔作歌川國貞画

戀女房雙言討双六

姥尉輔作歌川國長画

一對男時花歌川

式亭三馬作

前編歌川豊國画
後編歌川豊廣画

後

井屋次郎 一對男時花歌川

全十二冊續

右衛門板

福善 昭彰 天理 欲害人 他傷己 自

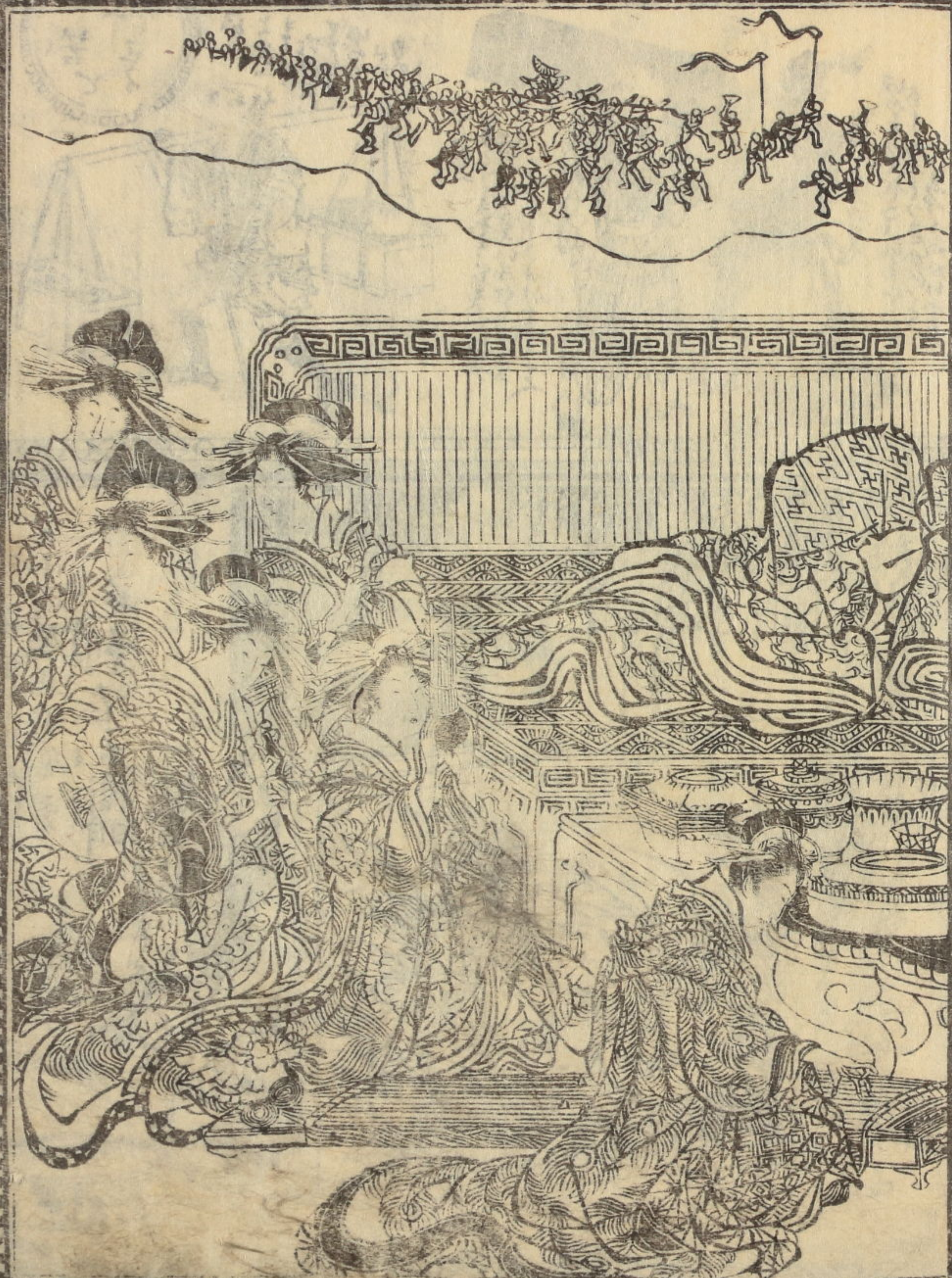
さるは後結ふい後本まわん所
まうふく渡の車れし頃ハ
親の因果うにむく
ワレ君を急かすい廊の
まうさふと當世風の
揚られむ
引さる秋川の新曲
ひくそのわい豊廣が
川といふ字れ 秋之徳



大正八年十一月十九日寄
坪内雄藏氏贈

江戸式亭三馬編

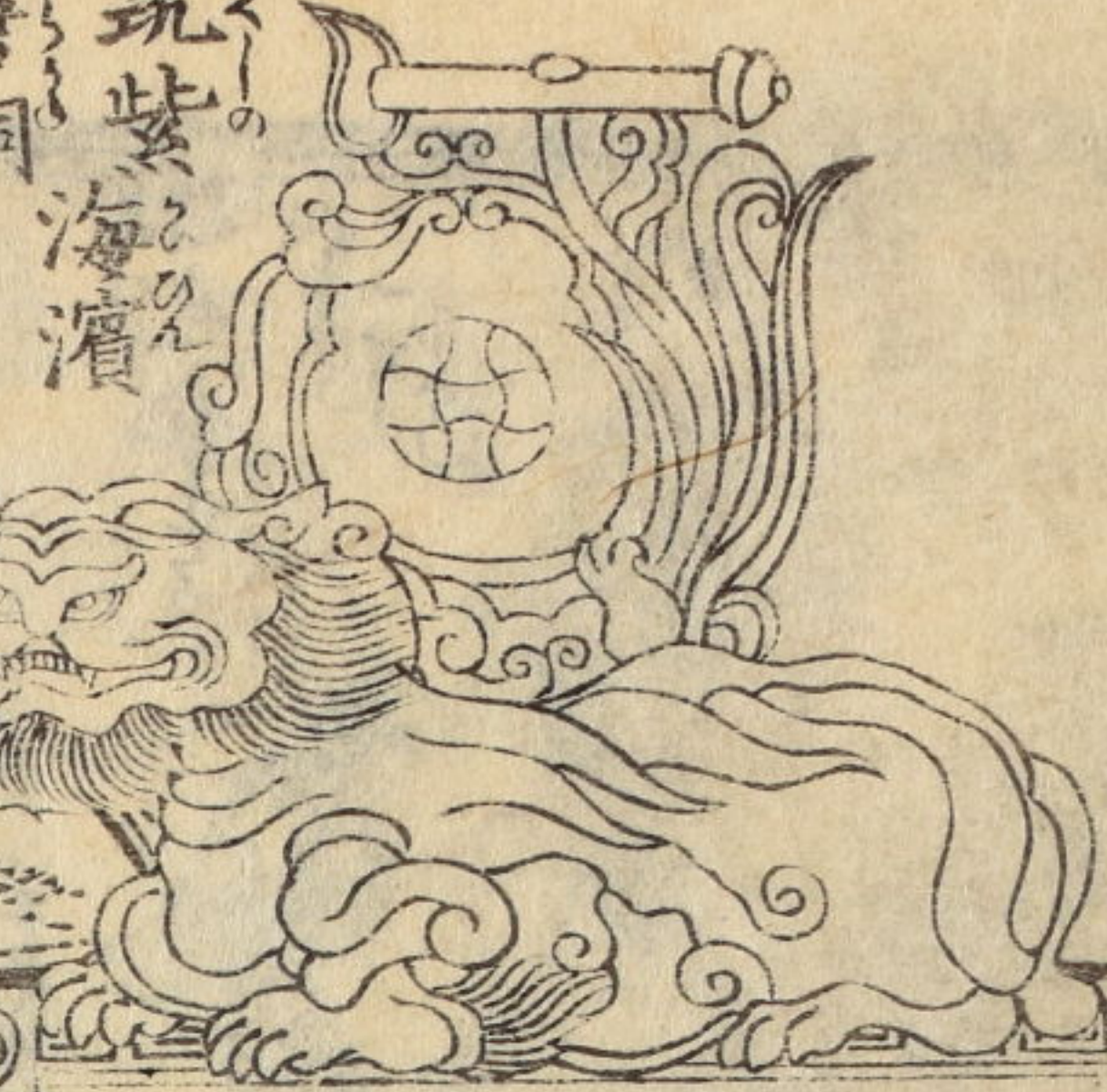




筑紫
 博多
 色街
 茨城
 道齋実名
 玄海灘右衛門
 歡樂
 百人
 女郎
 之
 圖

行
 し
 の
 へ
 の
 景

筑紫の海濱
唐銅の
大佛の
坐像



入江家の臣
小野源
二兵衛
後家



白縫

鶏娘乃圖



お染が寛鬼

鶏
着



入江家連寶
銀雞乃香爐



二之棧

ちふちふぐげんのふをうこのしろまらふむとびの長あまごありてのちつとるぐげのたつとる
 ちんちんといんちんうごもなしなえづくをうごせ一のしろあきうといをうき及然とのふりのあり
 百人女郎と名ふあきてのうをあまうごとうをさふふたりあどり小長一とえぬとと
 たりふれどもふれが今とをえあふふて今とてつとるげんせのふたれありてさうらふりのなく
 とうとふびきさあごふふそふんぶさうふ仲たりさくさめあふのふさうとつとつと
 庄園百のふとよこえ田畠いらうのえうあふれさあやふとまふして堂上とて花の
 でくけのえくの人をえあふて門あたふ市とるなり揚州の金荊山の三呉郡の綾蜀江の錦
 とちん万ちうひとんとてかふるふふ哥堂舞園のりふ乗龍雀馬のりてあふふり
 かのぐうふあつまれり月見の星雪見の亭すそふたふるつとこ山あふあふとくたふ
 草おとまふ四季の親物のこれりつとちりさるふとふ時の人ちとりとさふひるりのさかふ
 てるまらふ小井屋ありさうとふ淡歌ありふれあふぬげんせのふれが一對男と名を
 ふびぬふいとの童謡よ

淀の車へ水ゆゑまゐる。井屋初立希をどろの井屋が家へあどろてまゐる。茨城のいぢうさのおのや、及缺あどろり。それハそれ見て目がまゐる。

かくらふひいとるんこれをみへちぬとやいぢうさせんせいのつれづれ一つひとつを毎うらこ川と
表しうてこのゆくとあるをあらうちべーけた歌がおまゐりするところあひ百八すゑのなむが
まゝとるねうやわはわいふに目の子日めちくくあひ百人あまりのいうらんさいぞうの
よふうふてのころであふふめえうねされどもた歌ハひとまふこなりみてこそ
のとことかりうかがふのそるればたいめんさるるうなるじなれありてめでたいとある自の
なゝみ女良のうちよおのちあゝさりのあるときハあふひいろざるひあふひはきやくと
そまろふよさるちぐひうちくふそのつとをぢめてやりてとまゝあふめいどきひく
せうろちぐひかりそのるうらうらふべけれどもさうさる方々もさうさゆゑなくあ
まぶさてのいぢも重とんであふひをあらうすくうなればた歌ハうちちとの自のみ
めんとゑをあうぢぬぞとれどもあざりのさこさうとりふ人ありたふあふぎ

終つて

富貴在天

物
お
ま
ま
と

卷之五

お

かきくけこ

わびなくお

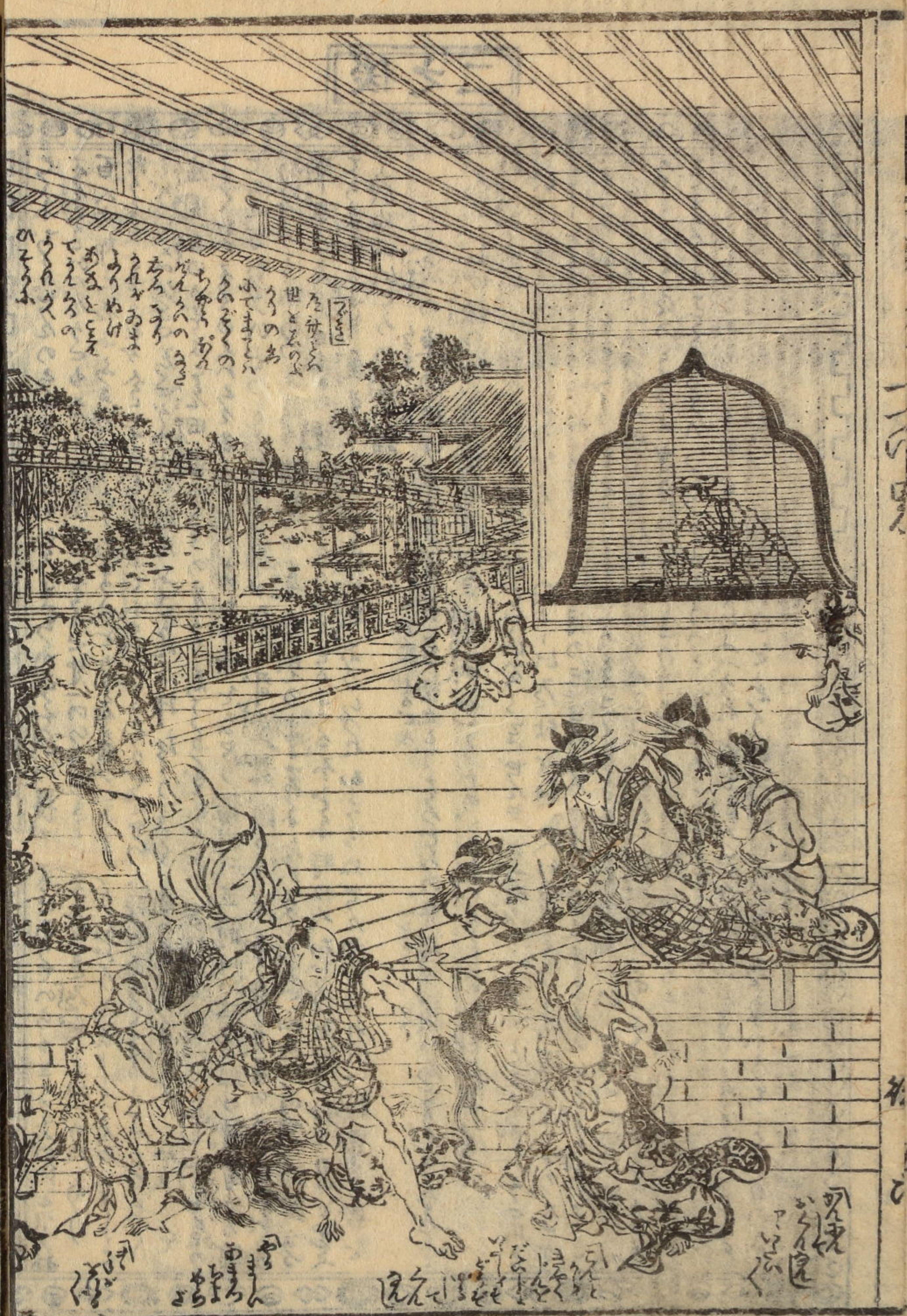
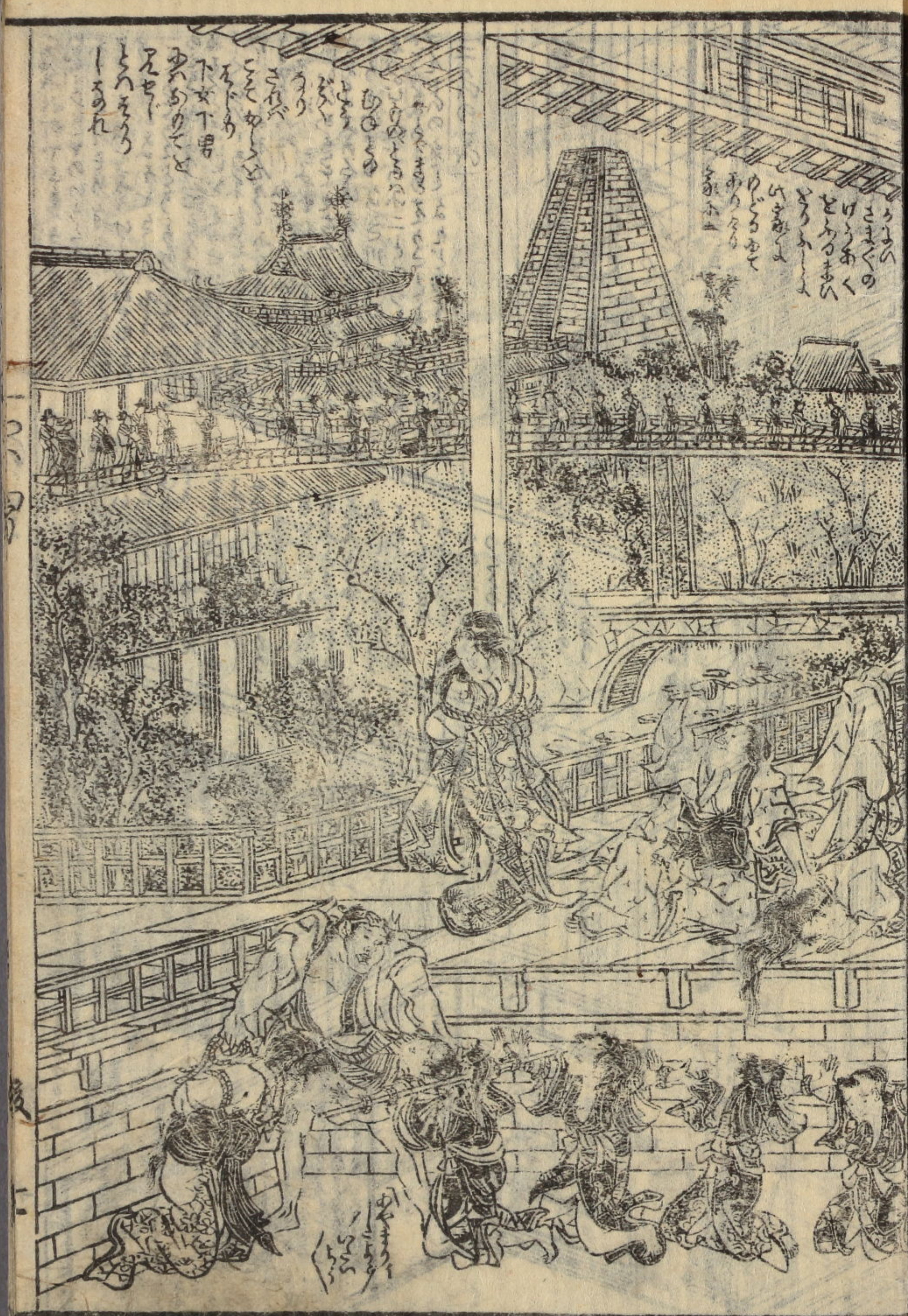
之

右出萬葉集

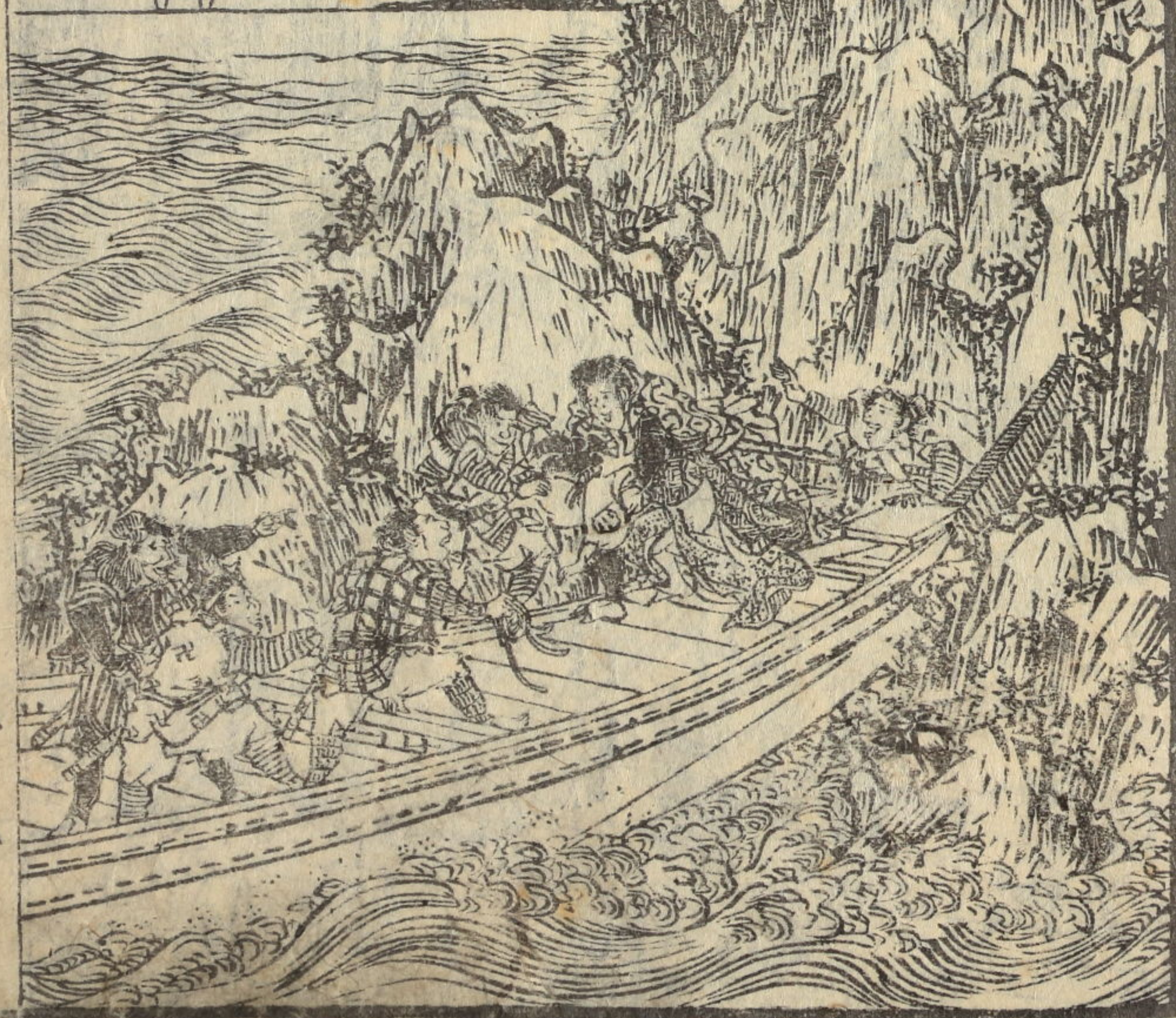
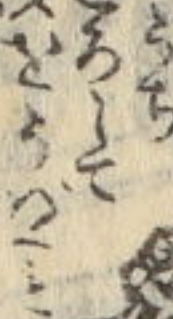
井屋古庵



カドヤの
井屋
ちやうやう
重寶
あふちやうの
雞之
かりの
掛物



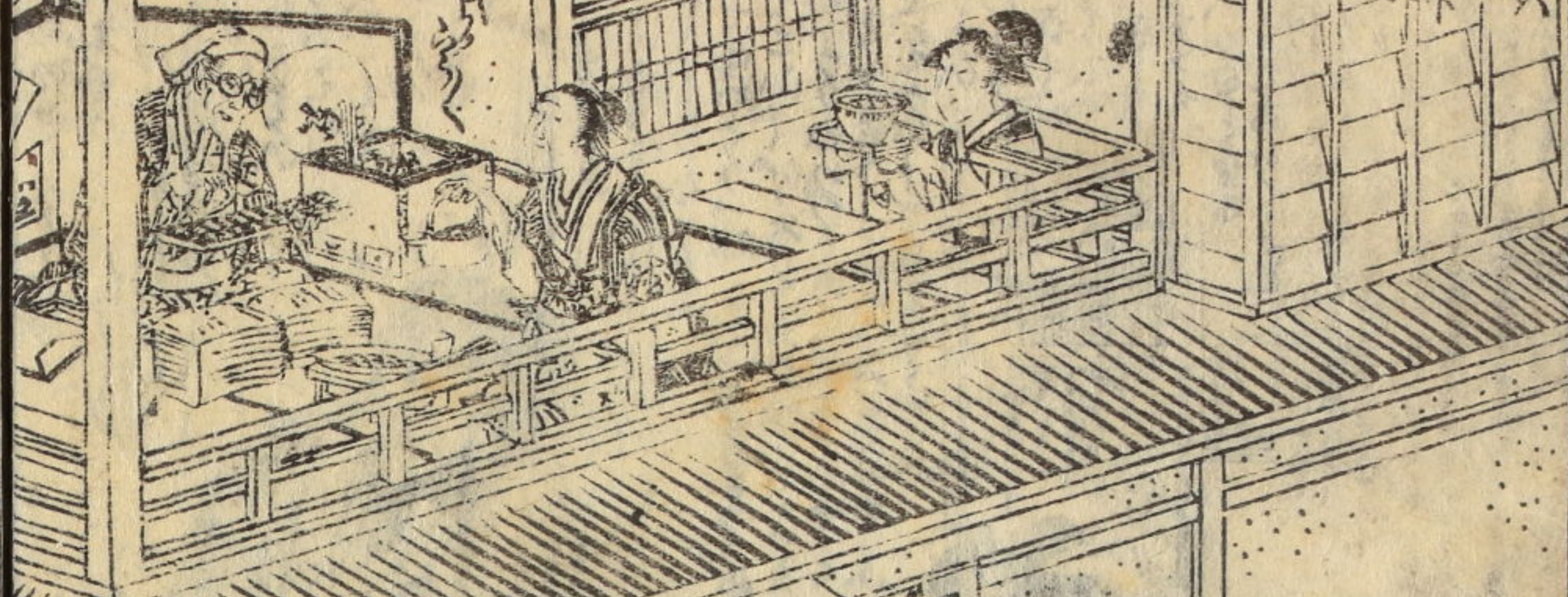
女をよつて
わらうとてやうまきぬくちをさ
これをもてさういふのひにわらふ
たをうつけしなごころの刃を
ぬきををり大ざいのあひては
うせせんごとくうけのけが
うのそくい大ざいのなれど家をさうぐ
うけいふうちよおこいよをさる
あけうちをのとりゆめぬ
のちてとぞこのむせり



宗子
 あまふ
 ひさふ
 死てひと
 はひのふ
 ありけ
 ところ
 ありふ
 ありふ

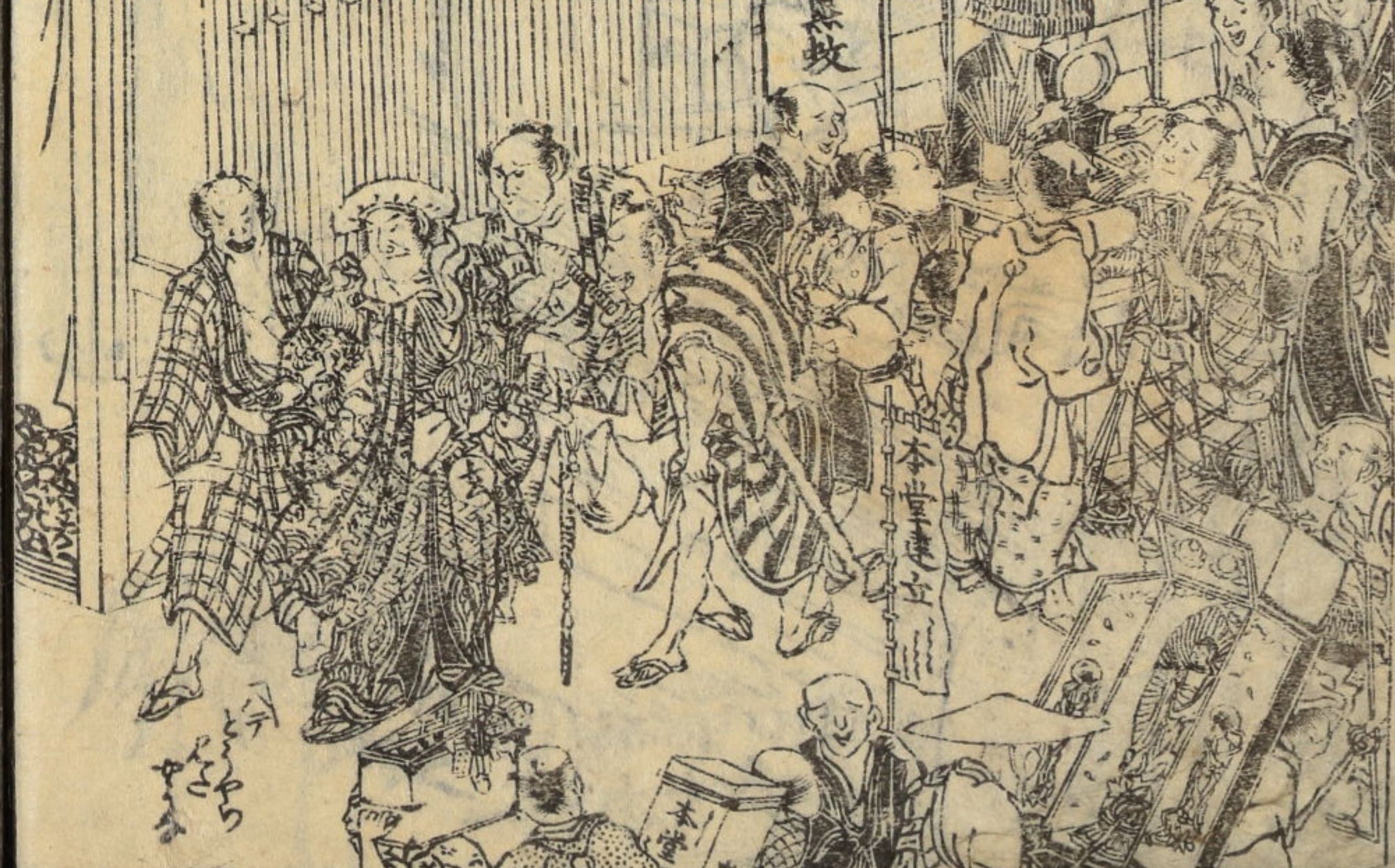
[illegible]

[illegible][illegible]

[illegible]

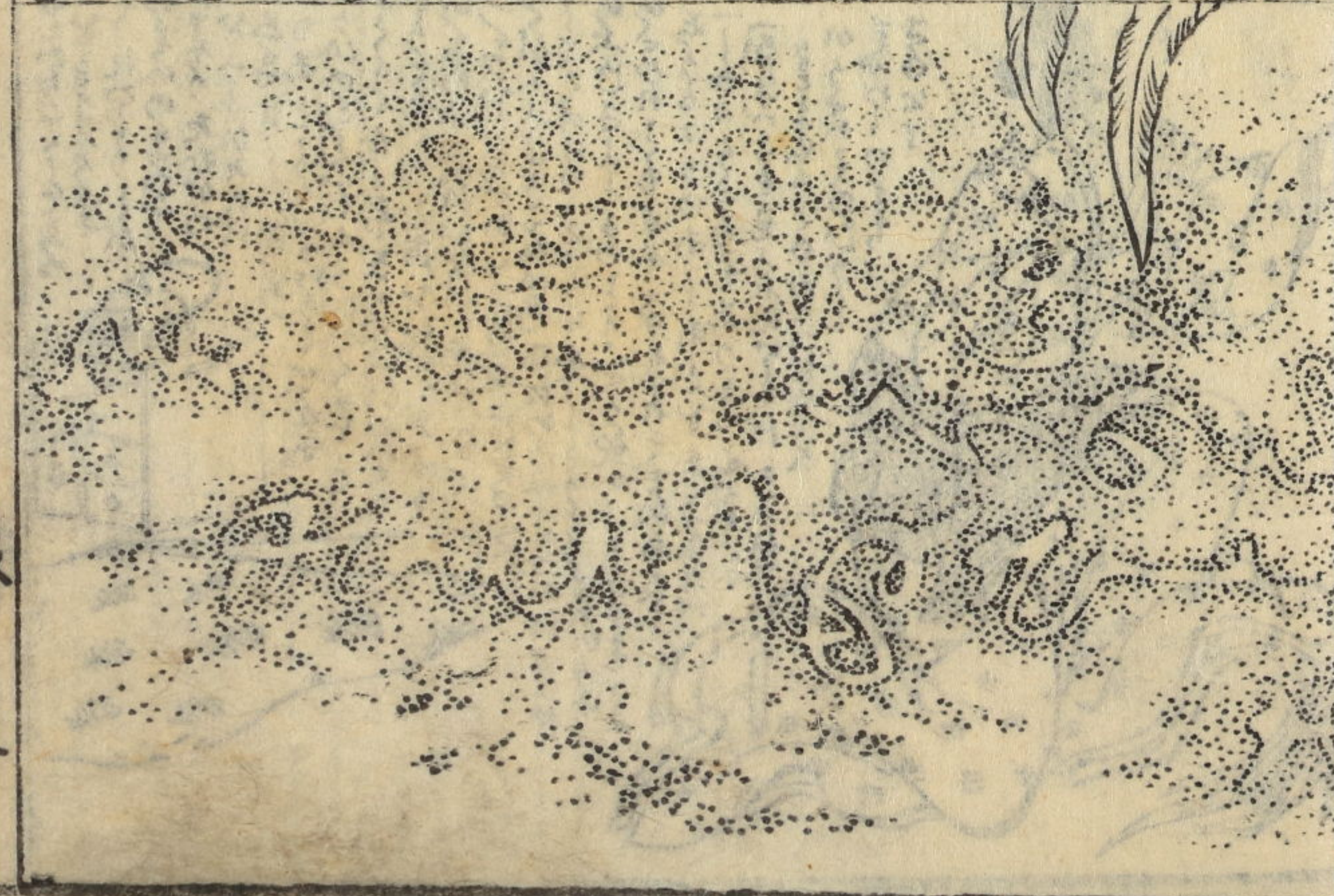
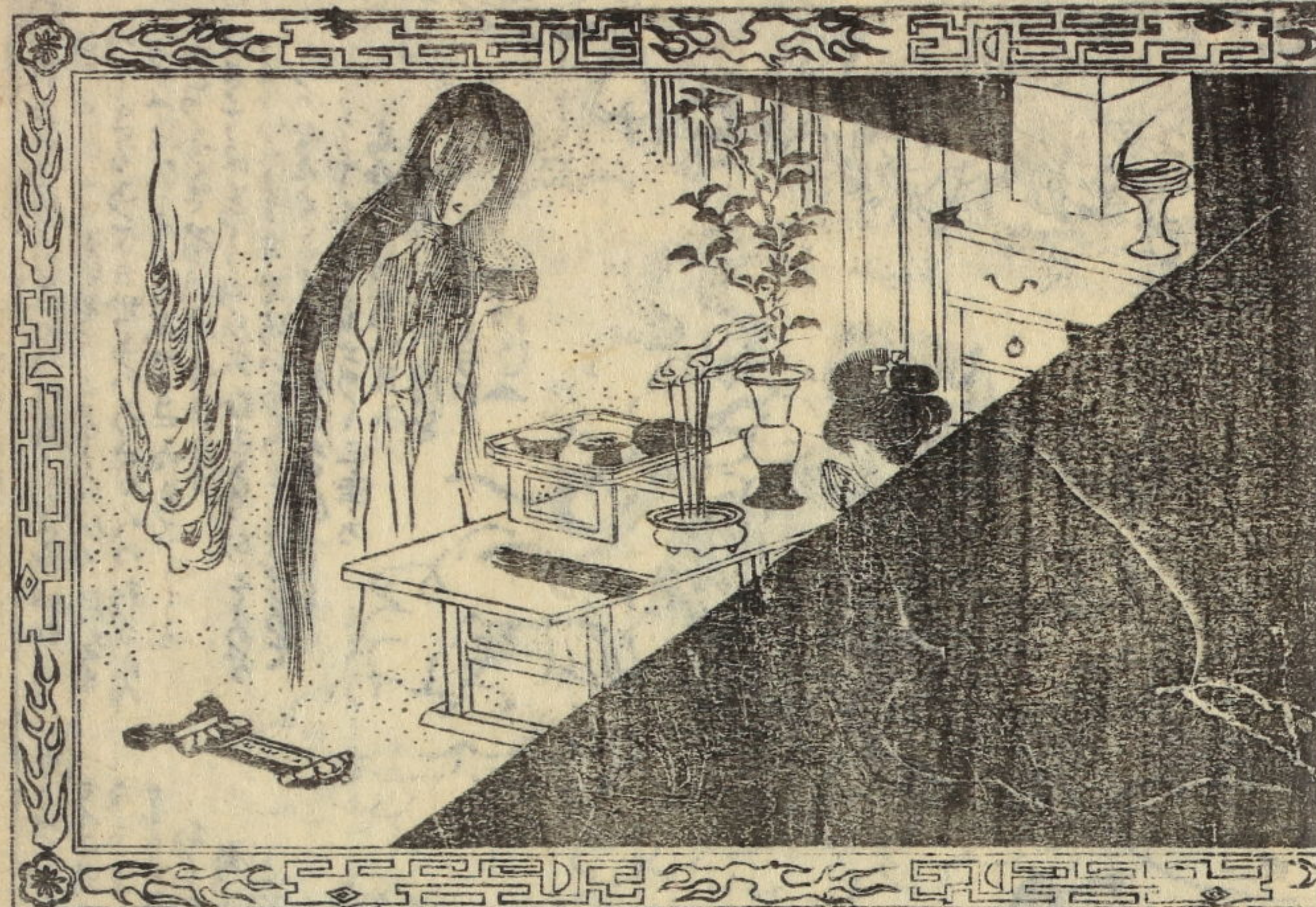
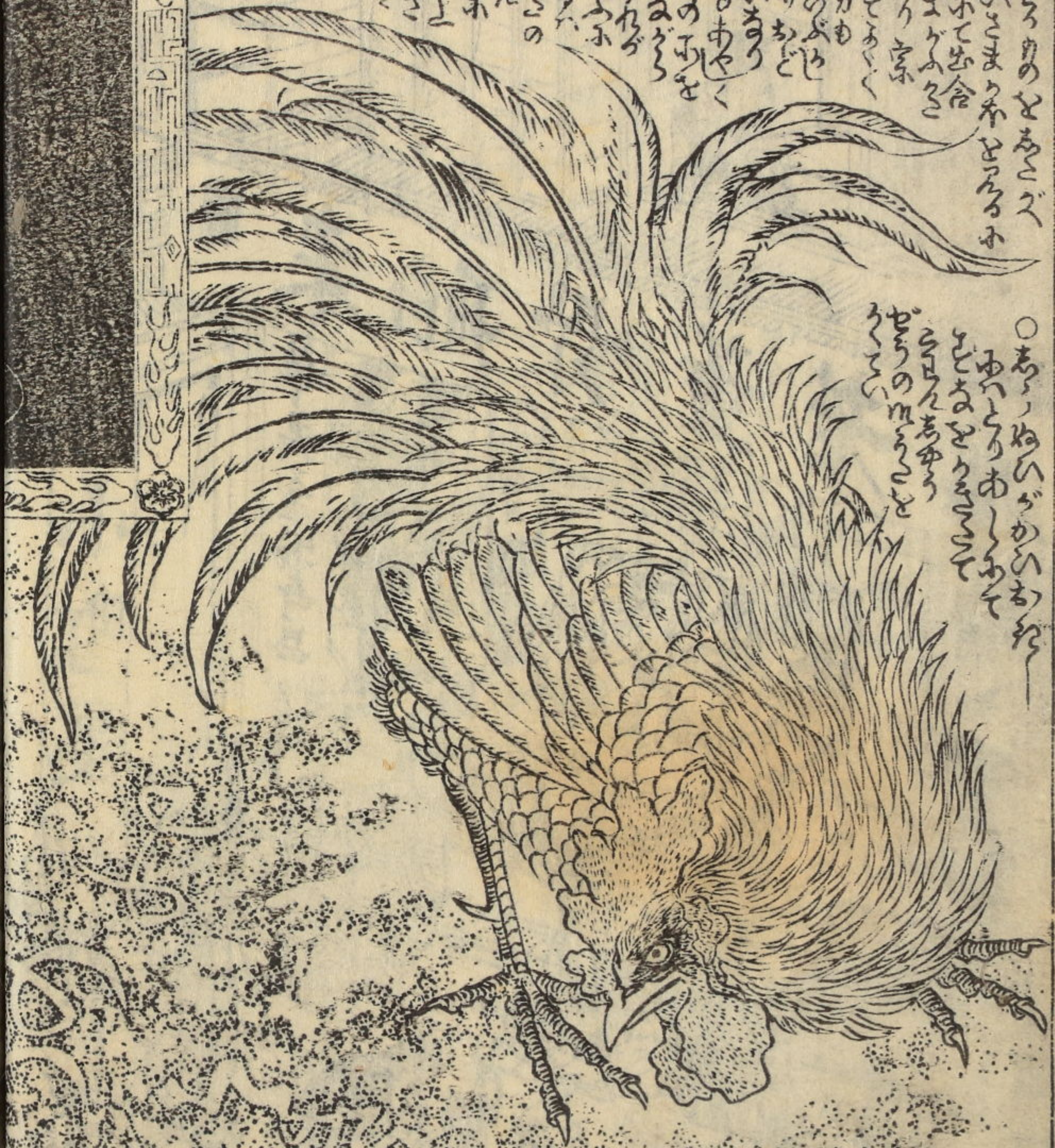
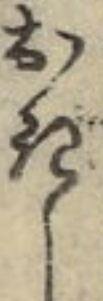
用ひはう
 くらひのう
 秘のう
 らんぐん

十有八變
 觀易勿弄



つゞき 天竺の口よりぬめをあらぐ
 するがふれちびいとまり希とあるふ
 さのつこち大船にて出合
 くるふいそくはまがふさ
 まさこめえふあり 宗
 ちうちとろふさてあぐ
 するれがうの大男かむ
 こふさとをきてのびり
 げふねろとつめちど
 ろささるふざのあり
 宗ちうのうおもあやく
 ぬひてまづそのふを
 直にこれよそまぐ
 ちさかゆきてくれぐ
 せうとをらうがふ
 人ありていれろふ
 うの人こそをらうの
 長者いあらた
 乃せまほこふ
 めでた死のうの上
 あれまどらうさ
 せふあぞ宗を
 負つてぐちふふ
 いささき及せ
 へ世ふくれな
 き大長者あれ
 づかへつて

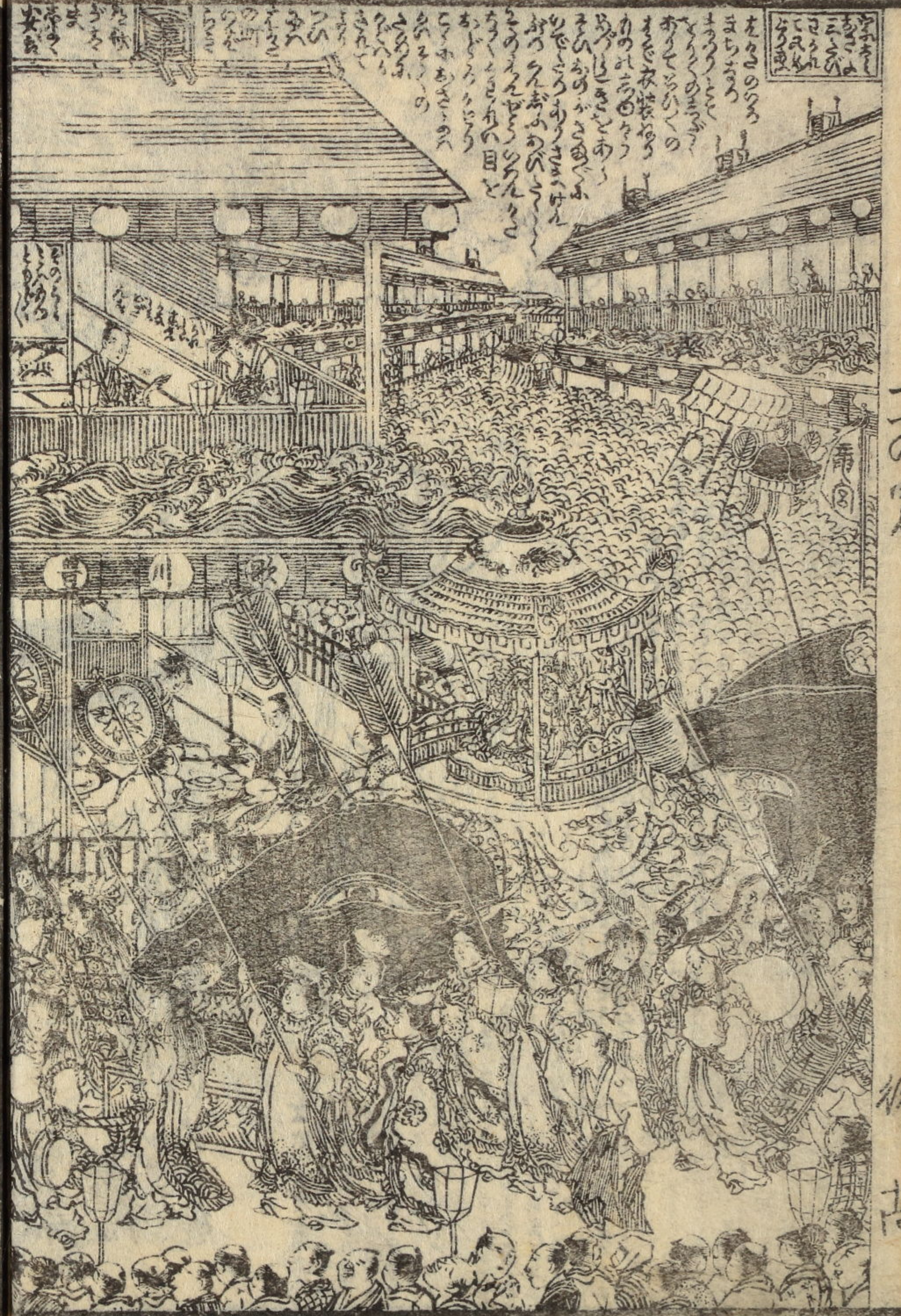
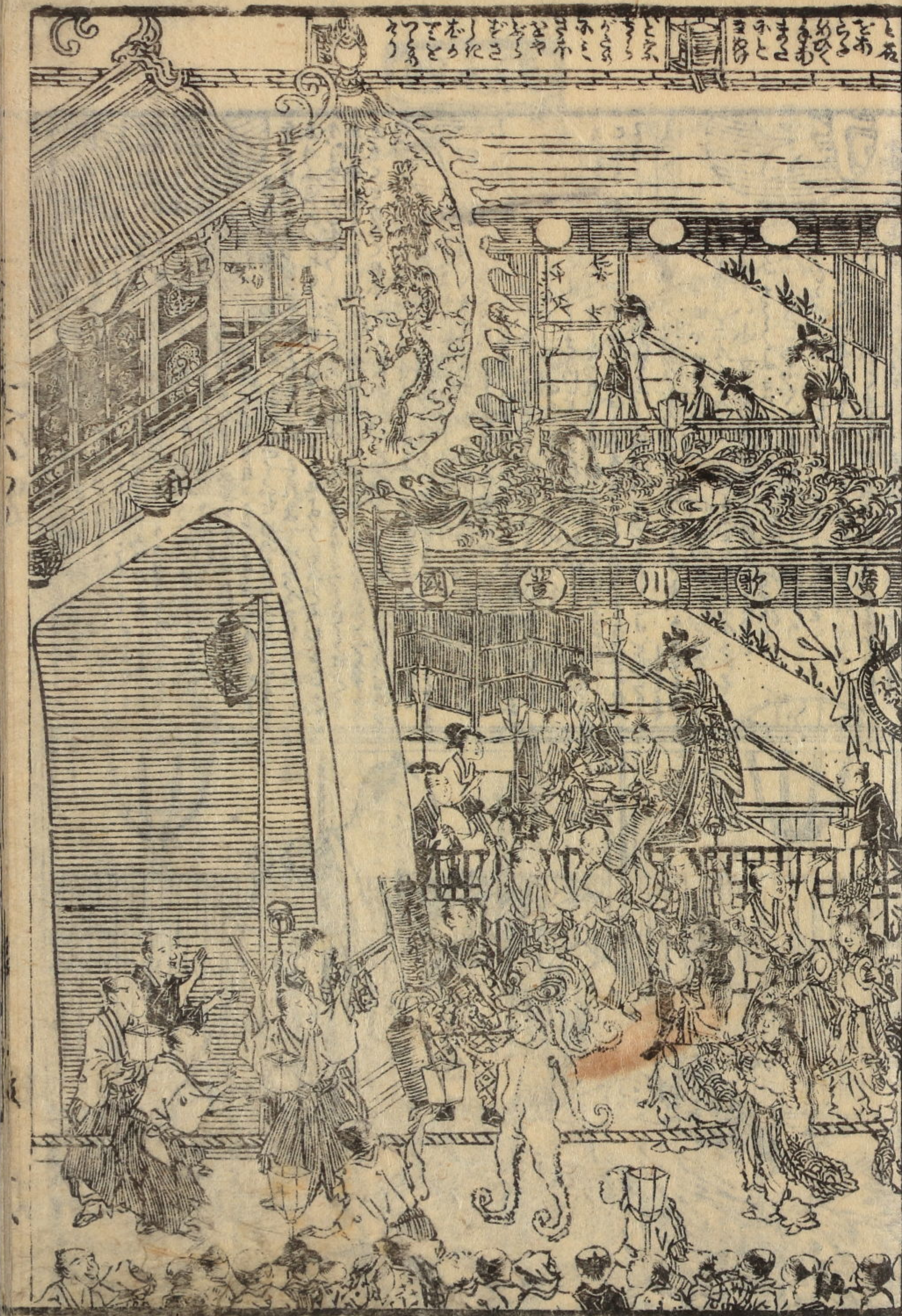
○あゝぬひがかりおた
あゝとてあゝとて
ととをむくきこて
らばんあかう
せいのめいこと
うそい



うつろやうとてしづつ
 だふめいどそふんからす
 なちまにわたりしむ
 まりてみえいのまふ
 おうちありたむけの
 りせうひなれべ
 こゝあまうしこ
 どもあとしよりま
 むひのとらざら
 ひとく今まで
 どうてんとし声
 りあふとびを
 つらうとあこ
 とがりよよしと

ちりふふうのあしあしをいふこれば
 一箇のふとあぢあけなりそのふとあ
 けはぐさといふれぬいせけきこのねの
 ちりふふうのあしあしをいふこれば
 一箇のふとあぢあけなりそのふとあ
 けはぐさといふれぬいせけきこのねの

[illegible]



四之後

人ぞう
けぞう
九ちんを
のけぞうを
やろびを
あさへんと
あさるたそ
とれぞう
かくとろいと
そのてれちんが
ゆくとをさづぬ

男のゐあ
どうぞ
くる小
人のむ
こぞ

[illegible]

A black and white woodblock print illustration from a Japanese story. A man in a patterned kimono stands behind a woman who is kneeling and looking down at a small object in her hands. The background features a sliding door (shoji) and two hanging lanterns.

[illegible][illegible]



雲の
 苦ふやぬ
 ふうふう
 ふりなまゝて
 なげのゝれかやのふ
 せきこころなるまゝ
 ふふうふうふう

「ふんまめぞとアイヤわうわうぶんの屋のか
 あふんとまぎうけ」うんとたれとく
 ひとつとあな身とあなねと肺が
 「ひらとらびのひよこめと毛を
 むいらのでえんねんまといつばやく
 小男の人まふへててててててて
 まのさういあうとあうく目もちを
 口けてのとすと祢づらのひらどろ
 をあとおんまてててててててて
 「ころろれせのどのさむあー
 ひきざりまがり九ちんち
 「お招いせとあぞアイル
 といさめさざちそ
 うつこしよその
 あぢさぬおの
 らとらとこれと
 かうらこととらと
 をしらてうちまが
 「ねどらめちう代
 ねと小町やふま
 スリヤこれを
 トさつこのあぢ
 さぬアどろちと
 うけおさをしる
 コリヤおちん
 足つけこととまら
 といくやくとらと

[illegible]

たち下うてふはなりとる
 つやに目が出るハ目かまゐる
 やあらつたゑの年中
 中さへつるハ十年
 人のともをさうりてのけ
 るげつたれにや
 らぬそせんきのとら
 朱万朝の九年や
 だくのんども
 うじまをちの
 金ののこてもこれ
 るうてにあといも
 大むけのやえつ
 かげのりあ
 るあて七ね
 あいとも
 〇こつ小町や
 いふりのあり
 妻あな
 中よさ
 ふこの
 あえし
 忠七の
 ぐさぬ
 さあへ
 しのん
 あろり
 ちあへ
 あろて
 福とま
 司つて
 今も今



次

[illegible]

卷之五

[illegible][illegible]

大のうゝもれり
 うまのまぢうこふ
 ありうゝさいらう
 ころとをひらう

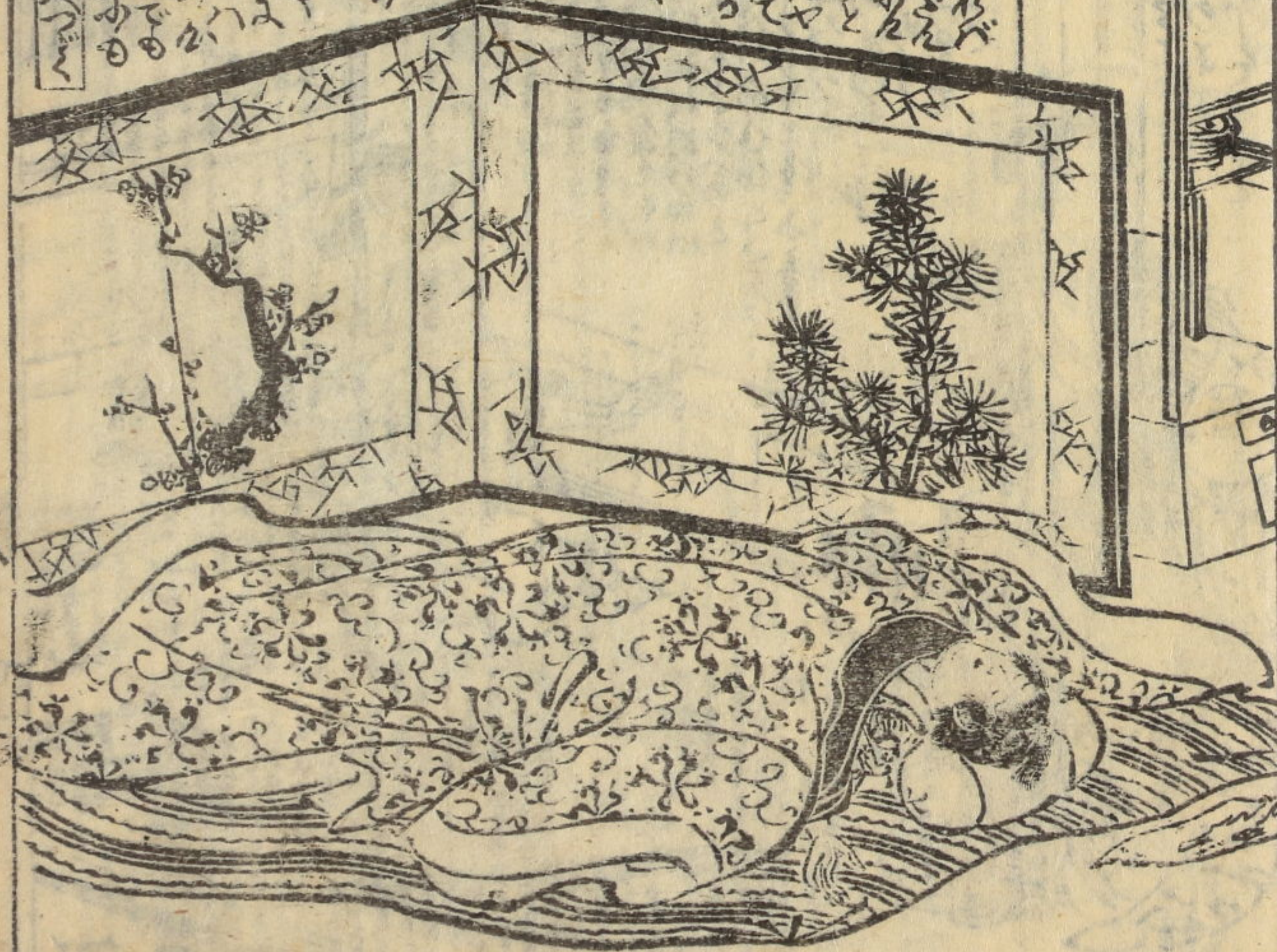
[illegible]

どのふちつともたせさんのとまぢぢ
 こころうふおやいめんをあらあや
 あらぐあふあらいめんをあらあ
 のいといあらんのかぞくも今うぢ
 のものつねね神ぞうりのまよと
 どのふちつともたせさんのとまぢぢ
 こころうふおやいめんをあらあや
 あらぐあふあらいめんをあらあ
 のいといあらんのかぞくも今うぢ
 のものつねね神ぞうりのまよと



「九ちゃんがかじ
づまをちうこぶ
めとちうりの
やと一つを
かみとさぬ
ちうぞうして
よめ
めづる

正人か
あふふ
ねづも

[illegible]

卷之六

[illegible]

つれいふと、あゝといふ、いややけどうめんはさういふてませうな
「今もかみさんへミテおれを」甘人こぼの九ちゃん云々あるやど
たつこ今いふで切らじと人きくそれらのさうぞく
まうまのおひうちるわいあといふち争ひ切るれるぢ
へねの家の中あさる十四さまのてふおかしひまひ
身がたろぬすいかうろのとらぞくあじぎどもい
うやともえあきざびあつくんまつこ家ちゅうか
けせとてふぬめされねばどとふう〜れて
みるゆきけし内あありう
天めのも一すこのひあに
ひろの國ぐ〜の内あ
とふあんのせのなきり
まるひちとのあも〜夜
あ〜ハ又なるがするが
あんひやくするるまがせんざ
ひ〜さうとるさうの細みゆる
あん〜ち〜さてんあやみのるげさ
おもんど二あ〜さ二あまでも足
のじてハトさるても切りう〜あやみの
る〜まの〜ち〜く〜く〜あやをさるひ
千苦万苦の九ちゃんがよりのかうろをせんさ
して家ち〜さあめのあも〜その上あぬめ
身のやんゆうづそのか〜口とれるよくけふ山山の
句のごく〜ねハめいどのたびの一里つづせめてさ〜のちる
ころまでいきてこれぐあやも〜こ〜直にたびあひ〜おと
孫ぢでずあやめ〜とのまがゆものき〜うるハ〜直に花のま

[illegible]

伏藥

前編おどや初めふかううう人物の巻甲はあまこふまところゆゑ
これより大尾まで紙表ひまへのあひで豊國豊豆廣両先生よりあひでさ
かひでいふくさといふ一應は甘口豆まきりちるん人物のさかへん車工の名
豊國車工豊廣車工かやうふちじふまをなげく小出流の上は評判あるくは希まき

いざ
勘右衛門 敬白

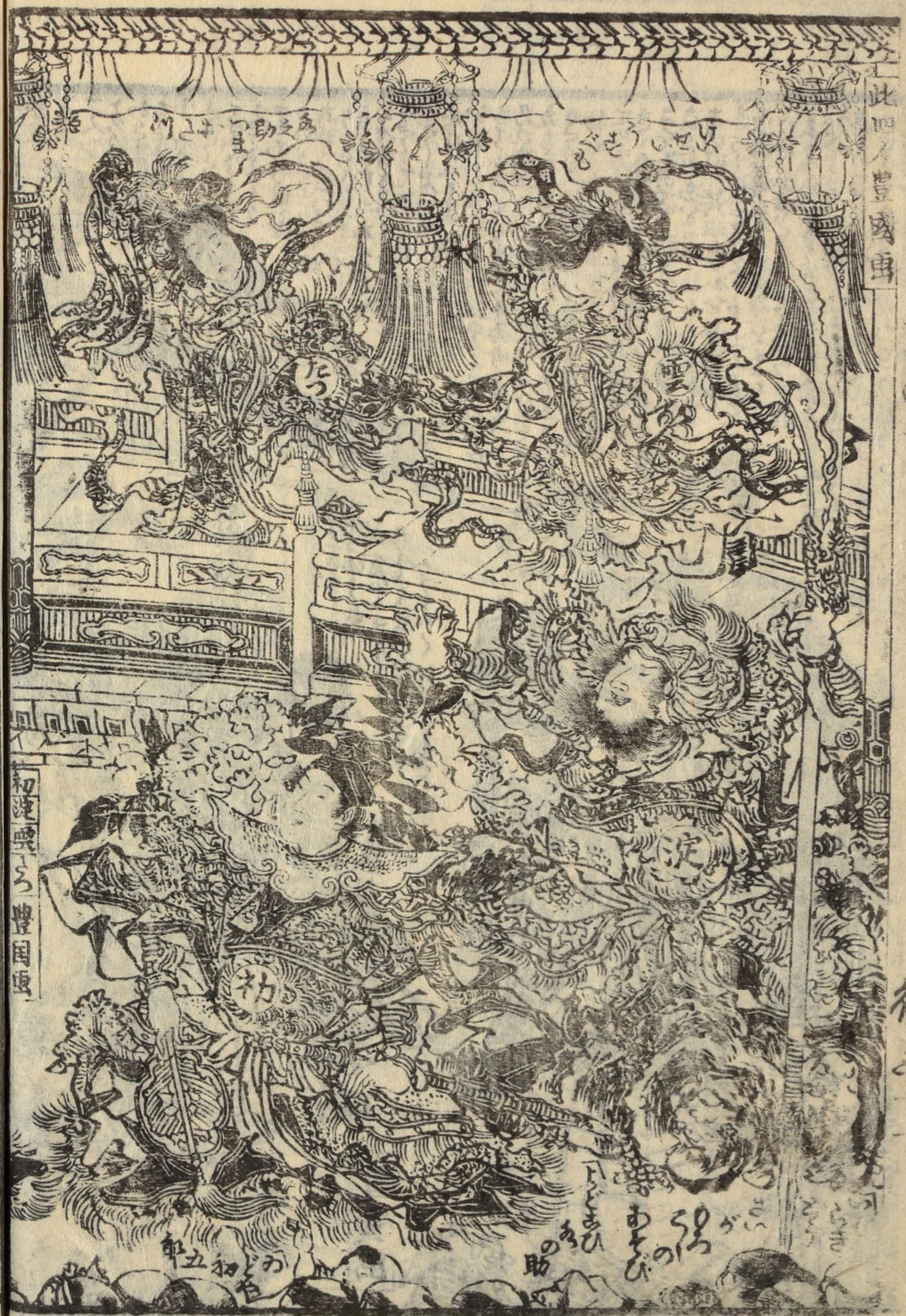
[illegible]

いりてのちささこよりさめ
わも船中のおんか女にめづ
りといさう人あづめしうひ一うろすまで
りさうぐのあざあうやうささめいなし死なな
こそういづくのちあうやうであつこよま
ちうちうとしの

▲まていびてひそりふえうこの町でなま
をいりての争うさととさざりかり
きんも修とい初めう

つづいて





画國豊よりれ



くさび

是より

曲身廣



Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a short note.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a short note.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a short note.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a short note.

